

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	富士見縄文推進事業
事業主体 (連絡先)	富士見町商工会 諏訪郡富士見町落合 10078-1
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	4,825,059 円 (うち支援金 : 3,705,000 円)

事業内容

日本遺産に認定された“縄文”皮切りに富士見町の魅力を掘り起こして内外に発信する。また、駅前商店を中心とした地域住民協働による地域活性化事業を行なうことにより多世代の交流を促進し、地域コミュニティー機能の向上を図るために下記事業を行なった。

- ① 縄文フードフェア

6月22日に町内商業者宛てに募集案内を送付。20店舗の参加が集まり、期間限定の縄文フードを創作し、チラシやHPでPRを行った。新たに店舗を週するような仕組みとしてデジタルスタンプラリーを実施。
- ② 住民参加型非接触型コンテンツの作成 (LINE スタンプの発信)

富士見中学校、富士見高校へスタンプ案の募集を募り、また町民にはスタンプの文言を募り、LINE スタンプ作成と販売を行った。長野日報でのプレスリリース、HPやfacebookで周知を行った。
- ③ 8月5日縄文キッズDAY

縄文土器づくり、弓矢づくりを開催した。32名と保護者の参加。
- ④ 縄文ハロウィンイベント
 - ・10月19日プレイベント (ジャックオーランタン作り) 町内外の小学生・幼児46名と保護者、また高校生や大人の参加もあった。
 - ・10月21日ホコ天祭り
商店街を12時~17時まで歩行者天国にし、ミニステージや店舗による出店、また商工会からの出し物をした。
- ⑤ イベント情報の発信、映像の集約

縄文フードフェアの店舗の紹介やイベントの開催の告知を発信。また写真・映像で記録し、内容の発信を行なった。
- ⑥ 地域住民“縄文”への意識高揚を図る

9月の後半に作成したタペストリーとのぼり旗を駅、商店街、町内公共施設等に100本設置した。設置したタペストリー・のぼり旗はそれぞれ地域住民の皆さんに管理していただいた。



【縄文ハロウィン】

【目標・ねらい】

“縄文”をコンセプトとした取り組みにより

- ① 多世代による地域住民との協働事業により、地域愛を育み、地域力アップを図る。
- ② 商店街に地域コミュニティー機能の向上を図る。

※自己評価【 A 】

【理由】
今年も大いににぎわい、キッズイベント、縄文ハロウィンイベントが認識されてきている実感が出来た。地域コミュニティーの向上が図れた。
デジタルスタンプラリーの導入で商業者のデジタルの活用も促進出来た。
またゼロカーボンアクションとして、マイボトルの持参の呼びかけだけでなく、イベントの中でゴミの分別の意識へのきっかけ作りが出来た。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

① 縄文フードフェア

町内より20店舗の参加があった。前年度と店舗数は同じだが、新しい店舗も加わった。HPやチラシ、イベントでPRしていく中で、店舗にとっても新しい商品を作るきっかけやお客様にきていただくきっかけにもなっている。また今年は新たにデジタルスタンプラリーを行なった。公式LINE登録者330名、3ポイント達成者97名アンケート回答数92名が回答してくれ、満足・大変満足が92%の結果となった。

② LINEスタンプの発信

中学生、高校生、また縄文キッズDAYに来てくれた子どもや保護者、地域の人々からの応募で約200人の協力をいただいた。今まで紙ベースでの周知が多かった中で、新しい取り組みも出来た。子どもイベントには主に小学生が参加しているため、新たな参加層にも周知が出来たと思う。9月4日にリリースしてから97人ほどが購入してくれた。

③ 縄文子ども委員会

縄文についての体験イベントを行った。32名の子どもとその保護者が来て、それぞれの体験を楽しんでいた。人数が予想よりも少なく、手を掛けることが可能となり、ノコギリを使って竹を切る作業も体験することが出来た。

④ 縄文ハロウィンイベント

・ジャックオーランタン作り

46名の子どもと保護者が参加した。また今年は高校生や大人の参加もあった。

・ホコ天祭り

出店店舗は商店街の店舗含め過去最高の69店舗となった。今年は終わりの時間まで大変多くの来場者が賑わっていた。来場者だけでなく、出店者も賑わいを見せ喜んでいただいた。子どもだけでなく、大人も楽しみ、町民や町外の人たちが世代を超えた多くの方々のコミュニティーの場の場が設けられた。地域協働だけでなく町興しにも寄与することが期待される。今年はゴミステーションの出店もあり、子どもたちにも考えるきっかけづくりが出来た。

⑤ ソーシャルメディア等での写真・映像発信

縄文フードのメニューを載せ、新聞を取っていない来ない方々やチラシ配布先でない地域でも見れるようにした。またイベントの周知や実施したイベントの写真をギャラリーにしたり、映像をYouTubeでも見れるようにすることで、富士見町のイベントが終わっても周知出来た。

⑥ 縄文や富士見縄文ハロウィンへの意識の高揚を図る

町内を車で走るだけで、「縄文ハロウィンって何だろう?」「井戸尻ってすごいのかな?」と思わせるような感じになる。富士見町って面白いなと思っていただけるようなのぼり旗が出来、装飾出来た。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

来年は商店街の店舗の方々中心にハロウィンイベントを開催できるように実行委員会を立ち上げ、イベントを展開して行きたい。

今まで紙ベースでの周知が多かったが、電子媒体を使用しながら“縄文”や“井戸尻”を絡めた地域活性化をしていこうと考えている。

今後は他団体とも協力して協働事業をおこなったり、地元を出て行った若者や女性、また今後IターンJターンになるであろう町外の人々にも周知が出来る仕組みを作り、発信しながら地域文化や歴史を紐解き、地域住民が富士見愛や誇りを持って取り組める環境づくりに取り組んでいく。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある